

第 30 回愛岐処分場専門家会議議事要旨

日時：令和 6 年 3 月 11 日(月) 午前 10 時～11 時 45 分

場所：多治見市役所本庁舎 2 階 大会議室

委員 停電復旧手順を記載したマニュアルに基づいて作業していたのか。

事務局 復電の際に仮設ポンプが動き出す認識がなく、想定していなかったため、マニュアルを作成していなかった。

委員 電気を復旧する時には、まずサブの電源をすべて落としておき、メインを入れた後に必要に応じてサブをオンにしていくと思うが、今回はその手順で行っていなかったのか。

事務局 その手順で行っていなかったと聞いている。

委員 電気工事受注者がその手順をとらなかったのはなぜか。

事務局 電気工事受注者や運転管理受託者に、復電時にポンプが作動する認識がなかったからだと考えている。

委員 新処理施設が稼働するまでには、マニュアルを整備することや、別の処理施設の制御信号を入れるなどが必要ではないか。今後の工事、特に新処理施設に切り替えるときに発生する事象を事前にシミュレーションして、うまくやっていただければと思う。

事務局 新処理施設が間もなく稼働できる状態になるので、気を付けて切り換えていきたい。仮設ポンプは使用しない方向で考えている。

委員 一部報道で「誤作動だった」とあったが実際はどうなのか。

事務局 機械の誤作動ではなく、作業手順の認識不足があったためポンプが作動してしまったと考えている。

委員 名古屋市は、事故原因 1 から 5 をまとめると作業手順の認識不足だったと結論付けているが、これらは事故を引き起こした直接的な原因である。この前にもっと大きな原因があり、それを明確にしていくべきだと思う。

事務局 処分場を運営するものとして、あってはならない事故ということを再認識して、取り組みを根本から変えていく必要があると考えている。

委員 通常作業とは異なる作業にもかかわらず、マニュアルもなく、事業プラン自体に欠陥があったと言わざるを得ない。今回の事故は組織的なエラーとしか言いようがない。

委員 この事故は起こるべきして起きたと思う。どこで何を確認するのか明確ではなかった。計画停電の実施頻度はどのくらいか。今後どのように名古屋市民や多治見市民に説明していくつもりなのか。

事務局 計画停電は毎年1回実施している。

事務局 工事に関する共通部分のマニュアルを整理して、組織的な問題について職員の意識改革を行い、今後の対応について市民の皆様に説明していきたい。

委員 今回流出した処理水は、経常的に繰り返し処理を行っていたものがあるため、基準値を下回るリスクの少ない水が排出されたということか。

事務局 はい。

委員 電気工事受注者の上位に現場監督といった責任者はいなかったのか。

事務局 新処理施設のプラント工事請負業者は、今回の電気系統の切替作業に直接関わっていなかった。

委員 新処理施設のプラント工事契約に仮設ポンプの管理は含まれていなかったということか。

事務局 はい。

委員 運転管理受託者は、これまでずっと運転管理をしているところか。

事務局 はい。

委員 仮設ポンプに関しては、運転管理受託者に責任があったということか。

事務局 通常の運転についてはそのとおりである。

委員 工事だけでなく責任管理まできちんと行う業者と契約をしなかった名古屋市の契約方法に問題があると思う。しっかりとした技術力をもつ業者には、その技術力に対し金額がかかるものであり、落札金額だけで決定すればよいという問題ではないので、名古屋市の組織として考えてほしい。

事務局 契約関係については、市全体の話になるので、どこまで具体的な対策ができるかを答えることはできないが、そういった点もあることを認識させていただく。

委員 新聞で誤作動という誤った情報が流れているので、プレスリリースをし直すべきである。市民に、事故の顛末、原因の正しい情報を伝えていただきたい。根本的な原因を明確にして、定例の時期を待たずに再度専門家会議を開催し、報告していただきたい。

事務局 どのような方法で行うかについて検討させていただきたい。

事務局 ご意見のとおり次回の専門家会議の開催については定例の時期ではなく、その前に報告させていただけるよう、日程を調整させていただきたい。

委員 市民に情報を公表することは誠意でもあり、ホームページなどで、正しい情報をいち早くオープンにすることでも安心感は違う。その後は情報をアップデートすることで情報を届けることが必要。どのように対応するかをマニュアル化し組織を改善して欲しい。

事務局 迅速な対応等についてきちんと整理していきたい。

委員 今回の電気系統の切替作業に立ち会った市職員は、どのような権限、知識を持った人物であったのか。作業の責任者は誰なのか、名古屋市なのか、電気工事受注者なのか。

事務局 名古屋市の職員が、きちん作業が行われているかを監督する立場である。

委員 今回のような事故が起きた場合にも対応策が分かる職員ではなく、単に作業の確認をしているということか。

事務局 はい。

委員 全体を統括する立場の職員がいなかったということか。浸出水流出の原因を突き止めたのは誰なのか。制御装置を復帰させたのは誰なのか。

事務局 運転管理受託者が、浸出水の流出に気がつき、制御装置を復帰させた。

委員 運転管理受託者は、電気系統の切替作業には加わっていなかったということか。

事務局 はい。ただし電気系統の切替作業を行うことは伝えてあった。

委員 今回の電気系統の切替作業について、電気工事受注者、運転管理受託者、名古屋市職員の間で全体的なミーティングを行っていなかったことが大きいのでは。

事務局 停電と復電の想定時間等は各社に知らせていたが、作業の詳細については打合せをしていなかった。

委員 復電の想定時間等を知らせしたのは名古屋市職員か。

事務局 はい。

委員 そうすると、この工事は名古屋市職員が一番大元の責任者か。

事務局 全体を調整するという立場から、名古屋市が責任者である。

委員 今回の作業の責任者が名古屋市であるならば、関係者合同のミーティングをして情報共有をしていなかったことが1番の原因ではないか。もしそうであるのならそのことを明確に原因として書いたほうがよい。ただ、責任者が名古屋市なのか、明確ではないため、今回の契約がどのような契約であったのかきちんと示して欲しい。

委員 作業手順の認識不足とあるが、今回の事故は、その作業手順を実行する組織自体が適切に運用できていなかったのではないか。それが本質的な原因でないか。

それに対する対策を考えるべきである。

座長 今回のような事故を二度と起こさないために、工事発注がどのような内容

であったのかについて資料があるとよい。入札であれば金額が安い業者になってしまうが、処分場などは環境に大きな負荷をかけるような施設であるので発注業務に関して検討する必要がある。

委員 資料を見て、運転管理受託者の事故当日の対応、管理業務が不適切だと思う。

委員 本当の事故原因についてきちんと明らかにすることで、多治見市民の納得や信頼を得ることができると思う。幸い、環境への大きな影響はなかったと思う。

座長 新処理施設の試運転はとてもしっかりと行っているので、今回の事故がなぜ起きたかを再度、専門家会議の場で検証できればよいと思う。契約の関係など分かりやすく資料にまとめていただいたうえで、再度の専門家会議の開催をお願いしたい。